

○ 本校の概要

○学校規模……児童数:994名・学級数:29学級・教職員数(57名):校長1、副校長1、教員44、講師5、事務1、栄養士1、カウンセラー2、都区非常勤2
 ○本校の教育目標……よく考える子ども 思いやりのある子ども がんばる子ども じょうぶな子ども
 ○本年度の主な取組……校内研究(理科、生活科) 研究主題「体験を生かした学習過程の工夫、問題を解決する学習過程の工夫」
 ○特色ある教育活動……国際交流(東京工業大学留学生・東京朝鮮第六初級学校) 池雪いきいき応援隊(学校支援地域本部)と連携した教育活動 校内研究と授業観察を関連づけた授業改善

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	児童の自己評価において「理科・生活科の学習に進んで取り組んでいる」の項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した児童の割合	4: 95%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	○おおた教育ビジョンや本校の実態から、今年度は体験を生かした学習過程の工夫や問題解決の学習過程の工夫を研究主題とし、教科を理科・生活科として校内研究に取り組んだ。 ○「理科・生活科の学習に進んで取り組んでいる」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は91%。主体的な学びにつながるよう、校内研究等を活用して実践的な研究を継続していく。 ○ICT機器は全学級で積極的に活用し、学習効果を高めている。 〔児童回答者数…993〕	○授業中、子どもたちは発言者に顔を向け、うなずきながら聞いていた。発言することで自己肯定感がもてると思う。 ○あいさつを返してくれる子どもたちも目を合わせてくれる。 ○コミュニケーション能力の育成はとて大切なことだと思う。 ○ICT機器を使い、子どもたちにとって、とてもわかりやすい授業が行われている。 ○ICT機器を利用した授業により、児童が今まで以上に授業に集中し、学習できていると思う。 ○道徳の時間、子どもたちが考えを素直に発言している姿が印象的だった。授業にのびのびと参加している感じが見とれた。 ○各自がよく考え、意見が出ていた。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	児童の自己評価において「学校の授業はよくわかる」の項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した児童の割合	4: 96%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	○「学校の授業がよくわかる」と肯定的な回答をした児童の割合は93%。習熟度別学習や補習教室の活用による、個に応じた支援が成果に結びついている。 ○授業改善推進プランをもとに、授業改善のポイントを示して授業公開(授業観察)を実施。 〔児童回答者数…993〕	○「話し合い」「発表し」「話を聴く」に感動した。 ○児童一人一人に細やかに対応している感じがした。 ○ICT機器の成果も大きいと思う。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	児童の自己評価において「友達と仲よく楽しく生活できている」の項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した児童の割合	4: 95%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	○「友達と仲よく楽しく生活できている」と肯定的な回答をした児童の割合は95%。 ○学校生活については、児童も保護者も9割以上が肯定的な評価をしている。 ○小中一貫教育において、道徳や生活指導の充実を図るとともに雪谷中学校区の共通課題を設定して取り組んだ。 ○登校支援アドバイザー、登校支援員、メンタルフレンドなどの活用を進め、対応中。 ○学校特別支援員や生活指導支援員、SCや保護者とも連携しながら課題解決を進めている。 〔児童回答者数…993〕	○道徳の授業での先生の言葉が、子どもたちに今後じわじわと響いていくと思った。 ○登下校時の児童の姿を見るたびに、子どもたちにとって学校がよい場所であると感じている。 ○見えにくいところもあるが、評価はできていると思う。 ○児童数が多い分、いろいろな友達づくりができるので、児童にとってよい環境だと思う。 ○地域の方のつながり、児童がより勉学に集中できる。
プラン4 体力増進の向上と健康	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいつつ「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	保護者の学校評価において「学校は、体力や健康指導等の実施を通して、お子さんの体力向上や健康の促進に積極的に取り組んでいる」と思っています。この項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した保護者の割合	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	○「早寝・早起き・朝ごはん」の実践や「進んで運動している」については82%の児童が肯定的な回答をしているが、昨年と比較して大きな変化はない。体力向上や健康増進についての取組についても保護者の理解を十分得ることができなかった。栄養士や養護教諭などが連携し、啓発を進めていく。 ○体育の実技研修会を実施し、授業改善の手立てとした。 ○次年度は体育朝会を定期的に設定して運動の機会を増やしていく。 〔保護者回答者数…683〕	○姿勢がよく驚いた。逆に教えられた思い。 ○児童数が多い中、よくやっていると。自宅に帰ってからが問題。(ゲームなど) ○早寝・早起き・朝ごはんは、もっと家庭での努力も必要なのではと感じる。 ○早寝・早起き・朝ごはんの取組については、学校は積極的に取り組んでいるが、家庭環境によって違ってくる。先生だけではなく、家庭や地域も協力して取り組んでほしい。 ○校長先生が82%の回答にまだまだと感じているとのこと。今後の取組をがんばってほしい。 ○スポーツの取組が減っているように思う。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	保護者の学校評価において「学校は、子どもの学力の定着・向上のために工夫したわかりやすい授業を行っている」と思っています。この項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した保護者の割合	4: 95%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	○「学校は、子どもの学力の定着・向上のために工夫したわかりやすい授業を行っている」と思っています。この項目において肯定的な評価は85%。「わからない」という回答が1割近くもあるため、校内研究の取組などを工夫して発信していく。 ○OJTについては、課題を精選して計画的に実施し、授業改善につなげることができるよう引き続き工夫していく。 〔保護者回答者数…683〕	○教員室前の掲示物がよく工夫されている。 ○先生方によって教え方は異なると思うが、わかりやすい授業を行っていると思う。「わからない」という回答が多いので、もう少し努力が必要だと思う。
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	保護者の学校評価において「学校は、家庭や地域のかかわりを深める教育活動(地域人材を活用した学習や保護者ボランティアの参加等)に取り組んでいる」と思っています。この項目で、A(とても思う)B(思う)と回答した保護者の割合	4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満	○地域とのかかわりを深める教育活動については、肯定的な評価が8割以下と低い。地域人材を生かした1年生サポートやキャリア教育、地域のお年寄りとの交流などの活動の周知に努めるとともに、学習の成果についても工夫して伝えるようする。 ○読み聞かせや図書室整備、その他多くの学習支援について、学校支援地域本部との連携を進めていく。 〔保護者回答者数…683〕	○日頃から、地域活動や防災活動に協力してもらっている。無理なお願ひにも対応してもらっている。 ○役員などをされていない方々には、地域とのかかわりを理解するのが難しいと思う。 ○保護者ボランティアが少なくなっているように感じている。 ○共働き家庭が多いので、地域と連携して教育活動に取り組むことの難しさを感じる。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点